



保育

の

創意工夫

5


## ぞうりを履いた子どもたち

前原 寛

五月のゴールデンウィークが明けると、気候は初夏の装いに移ります。さわやかな季節ですが、日によっては気温が30度近くまで上昇することもあります。ある年の五月中旬にそんな暑い日が続いた時、「ねえ、こんなに暑いから、もう夏になったのじゃない？」と五歳児に聞いてみました。そうしたら、「夏じゃないよ、だって虫がいらないから」と答えが返ってきました。なるほど、です。気温だけを見て、暑いから夏だと私は言いましたが、その子にとっての夏は、ただ暑いだけでなく虫もいる季節なのです。子どもの季節感の細やかさと、大人である自分の鈍さを、思い知らされたものです。

そんな子どもたちの足元は、ぞうり(草履)になっています。ぞうりを履






き、園庭で初夏の陽光を浴びながら、遊んでいます。

私のかかわっている安良保育園には、いわゆる制服というのはありませんが、保護者にお願いでそろえてもらっているものが、幾つかあります。その一つが、硬いゴム製のぞうりです。


ぞうりといっても特別なものではないのですが、一般的なものとは少し違い、鼻緒がついて足底が硬くなっています。一般によく出回っているぞうりは、鼻緒がなかったり底のクッションがきいて柔らかかったりしているので、当園指定のものを保護者には購入してもらいます。どうしてぞうりにこだわるのかというと、足元からしっかり丈夫になってほしいからです。

現在の履物は、靴にしるぞうりにしろ、一体に高機能化しています。全体を包み込んでフィットしており、クッションもきき、足をしっかり保護しています。小さい時からこのような履物に慣れてしまうと、足そのものではなく、履物の機能に頼りがちになります。たとえば、エアクッションタイプの靴を履いていると、走ったり跳んだり飛び降りたりする行動も、靴の機能を前提にしてしまいます。自分の足の感覚がおろそかになりかねません。

それを避けるために、当園ではぞうりを使用しています。鼻緒がついているので、親指と人差し指でしっかりと挟み込まないと脱げてしまいます。底も硬







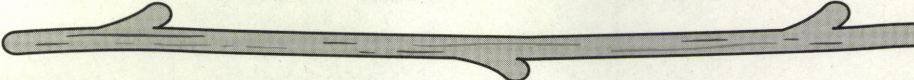
く、自分の足で衝撃を和らげる必要があります。子どもたちは、戸外ではこのぞうりを使用しています。毎日履いて走り回っている子どもの足は、しっかりとなっています。

そのことを裏付けるかのように、次のような発言をいただいたことがあります。近隣の小学校の運動会では、翌年の就学を控えた五歳児が、かけっこに参加します。園庭と違い、小学校の校庭はさすがに広く、子ども走りがいがあり、懸命に走ります。その様子を見ていた校長先生が、「この子は転びませんね」と言われました。これまで勤務していた小学校の運動会に参加する園児は、よく転んでいたし、いかにも幼い感じで走るのに、安良保育園の子は、転ばないし、走りっぷりがしっかりしているということです。

その話を聞いて、そんなに子どもが転ぶのだろうか、私のほうが意外でした。それで気をつけていると、ほかの保育園の子どもたちは、しっかり走る子もいるのですが、確かに転ぶ子が多く、全体にどこかひ弱な感じがします。ひいき目ではなく当園の子の走り方は、しっかりしているような気がします。ぞうりの効果があるのかな、と思うことでした。

当園では二歳児くらいからぞうりを履いています。早ければ、一歳児の子でも履いています。園で使用しているぞうりは履きやすく、嫌がる子どもはまず





いません。その年齢から履いている子は、四、五歳児になると、**ぞうり**が足の一部になっっているかのように活動しています。

一方、三歳、四歳で転園してきた子は、**ぞうり**に慣れていません。**ぞうり**を履いていても、足の指に力が入らず、すぐ脱げてしまいます。また、足先に引っかけた履き方になっていて、鼻緒を挟んで走れるようになるのに、時間がかかる子もいます。そして、**ぞうり**を履きこなせるようになると、活動もダイナミックになっていきます。

もちろん、子どもに履かせるだけでなく、保育者も足元は**ぞうり**です。ですから、当園では、みんな素足に**ぞうり**で行動しています。ただ保育者にとつて、子どもと同じタイプの**ぞうり**がなかなか見つからないことが、悩みのタネです。ファッショ性を優先していたり、クッションなどの機能が強かったりして、不向きなものが多いのです。

このように足元の基本は**ぞうり**ですが、スパルタ教育はしていませんので、寒い冬も履いているわけではありません。**ぞうり**の使用は、春から秋にかけてです。

五月は、**ぞうり**を履いた子どもたちが、走り回り始める季節なのです。

(鹿児島国際大学准教授・二元安良保育園園長)